



五中だより

令和 7 年 4 月 7 日
小平市立小平第五中学校
校長 伊藤 克行
小平市小川町 1 - 7 9 8

新年度を迎えて

校長 伊藤 克行

令和 7 年度を迎えました。今年度から小平第五中学校は学校経営協議会を設置し、コミュニティスクール、以下 CS と表記）として本格的にスタートします。CS とは「開かれた学校」から更に一步踏み出し、地域でどのような子どもたちを育てるのか、何を実現していくのかという目標やビジョンを地域住民等と共有し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」作りの一つの方法です。まずは本校 CS 委員の方々をご紹介します。

青木 雅代 様	前小平市教育委員会 委員 ※CS 委員長をお願いしています。
山田 裕 様	小平市教育委員会 教育アドバイザー（前白梅学園清修中学校 校長）
城戸 健一郎 様	こどもサポート株式会社 代表取締役
福田 順子 様	東京都立小平西高等学校 校長
二瓶 功次 様	小川一丁目児童館 館長
張 明子 様	地域教育コーディネーター
山田 猛 様	東京造形大学 教授
上原 学 様	東京都スクールカウンセラー
菅野 祥夫 様	令和 6 年度 こだごサポーター サポートリーダー
木村 一史	小平第五中学校 副校長

各ご家庭も、教職員の家庭環境も時代の中で変化しています。共働きの家庭が多くなり、育児への男性参加も当たり前になりました。地域には、保護者以外にも「学校に関わりたい」、「生徒のために何か役立つ活動がしたい」と思っている方がいるはずです。また、五中校区には大学も多く存在しています。そこで、地域の大学生の力も生かしたいと考えています。学校が必要とするボランティア活動を保護者だけに限定せず、CS を通じて、地域人材を取り込み機能させることができれば、生徒たちにとっても、保護者にとっても、そして教職員にとっても大きなサポートとなるのは間違いありません。小平五中はそんな CS を目指したいと考えています。以下、CS による具体的な取り組みのいくつかをご紹介します。

① こだごサポーターとの連携

本校 PTA は令和 4 年度から 2 年間かけてその在り方を見直し、従来の PTA 制度を廃止しました。学校がボランティアを必要とする行事などの際には、日程に都合がつく保護者の方を募集し、お手伝いいただく都度登録のサポーター制度に改編し、昨年度令和 6 年度より「こだごサポーター」として有志メンバーで学校をサポートしていただいております。この「こだごサポーター」運営を CS と連携させていきます。昨年の「こだごサポーター」の活動実績は、保護者会後の教員との懇親会実施、運動会大型テントの搬送、運動会・合唱コンクール受付業務、保護者向け給食試食会、リサイクル学校用品販売などです。リサイクル学用品販売の収益で、年度末には全校生徒にノートを寄贈していただきました。

② 検定試験運営

教育的効果が期待できる、英検・漢検などの検定試験については、教職員の勤務時間外の実施となるため運営が難しくなっていました。今年度からは CS で運営し、学校がサポートする形で

検定試験を実施いたします。この変更に伴い、英検・漢検は昨年度まで年3回実施でしたが、令和7年度より年2回の実施とさせていただきますのでご了承ください。

③ 生徒・家庭支援

様々な事情で学校に足が向かない生徒の数が増えています。また、学校にはなかなか相談できない悩みを抱える生徒や保護者もいます。前述のCS委員の中には専門的な知見を持つ方がいます。生徒や家庭に学校とは少し違った支援ができればと考えています。これまでに、個別学習教室、悩みを抱える保護者の会（白梅学園で実施）、会議日である水曜日の部活待機生徒の自習室解放などを行っています。令和7年度はこども食堂など、すでに地域にあるサポート事業の紹介や、学校外での居場所づくりなどに取り組んでいきます。

今回はCSで取り組みたいいくつかを紹介しましたが、他にも学校の進む方向や取り組みについて地域の理解を得て、地域と協力して生徒を育てられるような小平第五中学校にしていきたいと思います。CSのその他活動についても今年度少しずつできることから始めていきます。

さて話は変わりますが、年度始めに、保護者の皆様に生徒との関わりについてお伝えしたいことがあります。（昨年度4月にお伝えした内容と同じです。）

中学生という年齢は肉体的にも、精神的にも大きく成長する時期です。その成長にともない、大人の足りないところも見えるようになり、周りの大人を批判したり、反抗したりするようになる年齢です。とはいえ、まだまだ自分自身は子どもの部分があり、他の人や自分自身を傷つけてしまったり、悪いことをしてしまったり、たくさんの失敗をしてしまうのも中学生です。小学生の頃は大人に怒られるからやらないでいたことが、中学生では大人の目を離れ、自分のやってみたいという気持ちだけで行動し、失敗してしまうことになるわけです。しかし、失敗しなければわからないこと、失敗から学べることはとても大きいです。さらにこの失敗がその人を魅力的にしたり、とてもやさしい人間にしたりするから不思議なものです。

だからこそ、学校やご家庭が子どもの失敗したことに、どのように向き合い、どう対応するかが、とても重要です。例えばSNSで友人を傷つけてしまったとき、他の友人の悪いことだけを教師に話して、自分のしたこと隠したり、あいまいにしたりすることがあります。子どもは保護者の方に悪く思われたくないですから、保護者の方にこそ本当のことが言えないこともよくあります。生徒を指導する際に、このような事実とは異なる状態で被害をうけた生徒に謝罪をしても決してうまくいきません。被害を受けた生徒やご家庭が納得いかないのはもちろんですが、本当のことを言えなかった生徒自身も、実はたくさんのものを失います。間違ったことを学習してしまうからです。自分が間違えたことを正直に話ができると、話をした本人が一番すっきりした気持ちになります。こうなるには、間違えたことを反省している子どもを認め、その正直さを評価することができる大人がそばにいることがとても重要だと思っています。何か問題が起きてしまったとき、ご自分のお子さんを信じることはもちろん大切なことですが、その信じる気持ちがお子様とうそをつかせてしまうことがあることも理解しておく必要があります。私たち教師も生徒を疑うのではなく、よく状況を見て丁寧に一人一人に向き合いたいと考えています。

ご家庭でも、学校で何かが起きた時、学校から連絡があった時、冷静に状況をとらえ、学校と一緒にお子様の成長につながる指導をお願いしていけるとありがたいです。中学校時代にたくさんの経験をして、たとえ失敗しても支えてくれる大人の存在があることを実感できるような関係を保護者の皆様と学校で築いていきたいと考えています。

私たち教職員は一人一人の生徒のことを考え、指導に当たりますが、学校の指導が不十分な場合や至らないことがある場合は遠慮なく学校までお知らせください。1年間どうぞよろしくお願いいたします。